

たまねぎレポート【第418号】



令和4年8月26日

阪南青果株式会社

社内報

7月の天候は、気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高かった。降水量は北日本の日本海側で少なかった一方、北・東・西日本の太平洋側が多かった。日照時間は北、東日本の日本海側が多かった。8月前半は天候不順で、東北・北陸地方では、高温・豪雨に見舞われ、大きな被害を蒙った。北海道は高温・多雨で寡照であった。

気象庁の9～11月の3か月予報では、平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多

い。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期出変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の7月の野菜の販売量は、202,856トン前年比90%(前月比97%)、平均単価はkg¥239前年比110%(前月比94%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市況は高値だった5月比では、6月、7月と月を追って軟化している。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比85%、平均単価はkg¥232前年比112%。東京市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg¥252前年比109%。名古屋市場の販売量は前年比88%、平均単価はkg¥229前年比110%。大阪本場の販売量は前年比91%、平均単価はkg¥240前年比112%。福岡市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg¥184前年比111%となっている。

建値市場の7月の玉葱の販売量は18,069トンで前年比77%、(前月比96%)、平均単価はkg¥162前年比147%(前月比79%)。販売量が前月比4%減で平均単価は前月比21%安で市況はギリ貧傾向となっている。市場別では、札幌市場の販売量は1,449トン前年比63%、平均単価はkg¥176前年比171%。東京市場の販売量は7,543トン前年比78%、平均単価はkg¥163前年比139%。名古屋市場の販売量は4,396トン前年比75%、平均

単価はkg¥162前年比153%。大阪本場の販売量は2,819トン前年比77%、平均単価はkg¥157前年比148%。福岡市場の販売量は1,862トン前年比91%、平均単価はkg¥156前年比144%となっている。

日本農業新聞社の7月の集計値では、主要7地区の代表卸7社の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が89,454トン前年比10%減、平年(過去5年平均値)比6%減。平均単価はkg¥146前年比15%高、平年比1%高となっている。販売量が前年比増の品目は、ブロッコリーが71%増、レタスが7%増、ネギが1%増の3品目。販売量が前年比減の品目はタマネギが25%減、ニンジンが21%減、ホウレンソウが17%減、ジャガイモが12%減など11品目。前年比高となった品目はニンジンがkg¥151で62%高、タマネギがkg¥145で48%高、ダイコンがkg¥109で45%高、キュウリがkg¥238で36%高など10品目。前年比安の品目は、ブロッコリーがkg¥155で前年比44%安、ジャガイモがkg¥90で22%安、レタスがkg¥88で14%安、トマトがkg¥283で1%安など4品目。となっている。

東京都中央卸売市場の7月の野菜の入荷量は、110,165トン前年比91%(前月比96%)。平均単価はkg¥252前年比109%(前月比94%)で入荷は前年比約10%減、前月比約4%減。価格は前年比約10%高、前月比約6%安となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、レタスが前年比5%増となった1品目のみ。入荷が前年比減の品目は、ナマシイタケが前年比の77%となったのを始め、タマネギが78%、ホウレンソウが82%、キュウリが83%など14品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg¥168で前年比160%、ダイコンがkg¥139で154%、タマネギがkg¥163で139%、など12品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥98で前年比70%、レタスがkg¥107で80%、サトイモがkg¥339で82%など3品目となっている。

東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	110,165	90.7	95.5	252	109.3	94.4
た ま ね ぎ	7,543	77.9	89.0	163	139.4	77.1
キ ャ ベ ツ	16,508	95.3	98.7	78	109.8	92.9
は く さ い	5,950	91.0	97.8	62	104.4	88.6
だ い こ ん	6,231	86.1	91.6	139	154.2	132.4
に ん じ ん	5,207	85.9	93.9	168	160.3	109.1
ば れ い し ょ	4,265	86.5	57.4	98	70.0	81.0
レ タ ス	9,603	105.2	128.0	107	80.1	69.9
ト マ ト	6,971	87.1	96.2	329	102.4	98.5
ね ぎ	3,234	91.8	93.2	367	116.1	84.8
か ぼ ち ゃ	2,104	94.8	103.4	219	113.7	81.4
な が い も	965	106.2	107.1	291	91.2	100.7
れ ん こ ん	217	65.1	192.0	745	128.0	50.5
に ん に く	190	111.4	102.7	922	82.5	102.6

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷販売量は7,543トン前年比78%
(前月比89%)。主力は兵庫物で入荷量は3,553トン前年比76%、占有率は
47%前年比1ポイントダウン。佐賀物は1,538トン前年比70%、占有率は2

0%前年比3ポイントダウン。富山物は394トン前年比113%、占有率は5%前年比1ポイントアップ。北海物は345トン前年比66%、占有率5%で前年と同じ。香川物は193トン前年比59%、占有率4%で前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg¥163前年比139%(前月比77%)。産地別では、兵庫物はkg¥172前年比146%。佐賀物はkg¥169前年比138%。富山物はkg¥132前年比130%。北海物はkg¥137前年比108%。香川物はkg¥190前年比155%となっている。

8月に入って、府県産の切り上がりが早く、北海物へのバトンタッチが早まった。北海物は天候不順で収穫遅れとなったものの、月初めから順調な入荷が期待されたが、月始めに東北、北陸地方が豪雨に見舞われ、JRが不通となったほか、フェリー便の欠航等、輸送の乱れで月前半の入荷は予想を下回った。月前半の品質は、日照不足で日干しが出来ず、泥皮付着で、見栄えが悪く、高温・多湿で病害球も散見され、芳しくなかった。昨今、北海物の入荷はほぼ順調で、府県物が終了し荷動きは回復基調にある。北海物は、北みらい、えんゆう、富良野がメインである。L大は事前に売り込みを掛けていたこともあり、荷動き好調。2Lも納入筋の引き合いでまずまずの動き、Lの動きはやや重い。天候不順や輸送の乱れで、入荷は予想したほどの増加はなく、当面は保合相場が続きそうだ。

8月1日～20日の玉葱の入荷販売量は5,582トン前年比85%、平均単価はkg¥148前年比142%。主力は北海物で府県物は切り上がりが早く、大幅減となった。産地別では、北海物の入荷は3,995トン前年比104%、平均単価はkg¥139前年比137%。兵庫物は874トン前年比47%、平均単価はkg¥208前年比180%。富山物は202トンで前年比111%、平均単価はkg¥122前年比143%。佐賀物は151トン前年比43%、平均単価はkg¥183前年

比161%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の7月の玉葱販売量は4,396トン前年比75%(前月比102%)で前年比減、前月比増となっている。主力は兵庫物で、販売量は3,302トン前年比72%、占有率は75%前年比4ポイントダウン。北海物は357t前年比66%、占有率は8%前年比1ポイントダウン。富山物は351トン前年比122%、占有率8%前年比3ポイントアップ。愛知物は128トン前年比84%、占有率3%で前年と同じ。長野物は114トン前年比98%、占有率は3%前年比1%ダウン。総平均単価はkg¥162前年比153%(前月比86%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥175前年比155%。北海物はkg¥68前年比113%。富山物はkg¥162前年比141%。愛知物はkg¥115前年比167%。長野物はkg¥147前年比136%となっている。

8月に入り、府県物の産地在庫が少なくなり、北海物の入荷が待望されたが、月始めの大雨に依る東北・北陸の水害で、JRの不通箇所が多発し、輸送が乱れ入荷は後ズレし、盆需要に間に合わなかった。盆以後の入荷は日を追って回復したが、球流れは、大粒で2L、L大の比率が高く、売り辛い状態であった。昨今、北海物の入荷は増加傾向にあるものの、買参人からの注文が多く、品薄傾向にある。入荷は、北みらい、美幌、岩見沢がメインだが、今年は天候不順の影響か、いづれの地域の品物にも、病害に依る腐敗球が散見される。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は、2,819トン前年比77%(前月比102%)で前年比減、前月比増となった。産地別の販売量は、兵庫物が2,484トン前年比89%、占有率88%で前年比12ポイントアップ。愛媛物は137トン前年比50%、占有率5%で前年比2ポイントダウン。和歌山物

は134トン前年比72%、占有率5%で前年と同じ。総平均単価はkg¥157前年比148%(前月比76%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥163で前年比143%、和歌山はkg¥78前年比195%。愛媛物はkg¥131前年比170%。となっている。

8月に入り、東北・北陸地方が大雨による被害でJRが不通となり、輸送力低下の情報と兵庫物の産地在庫減を反映して、盆前の市場相場は値上がりへ転じた。トラック便で着荷した北海物は、2L¥3,000。L大、L¥3,200と兵庫物に比べ割安感から荷動きは好調であった。盆明けからは北海物の入荷は順調で、岩見沢、富良野地区に腐敗が散見され、仲卸の警戒感が強まり相場は一時軟調に転じたが、昨今では入荷量が少なく、市況は強含みの気配である。

8月1日～20日の玉葱の入荷販売量は1,899トン前年比88%、平均単価はkg¥165前年比157%。産地別では、兵庫物は1,155トン前年比88%、平均単価はkg¥183前年比163%。北海物は726トン前年比93%、平均単価はkg¥136前年比143%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の7月の玉葱販売量は、1,862トン前年比107%(前月比102%)で、建値市場で随一前年比、前月比とも増となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,346トン、前年比107%、占有率72%前年比10ポイントアップ。中國物は193トン前年比131%、占有率10%前年比3ポイントアップ、北海物は121トン前年比90%、占有率7%で前年比と同じ。長崎物は100トン前年比40%、占有率5%前年比7ポイントダウン。総平均単価はkg¥156前年比144%(前月比82%)で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥166前年比144%。中國物はkg¥110前年比124%。北海物はkg¥94前年比91%。長崎物はkg¥173で前年比199%。となって

いる。

8月に入り、佐賀物は終盤を迎え入荷は日々減少傾向となった。待望の北海物は天候不順による収穫遅れと、月始めの東北・北陸地方が大雨による被害でJRが不通になったことで、入荷の不安定化が続いた。盆直前には、トレー5台100トンの入荷があり、一気に北海物主導の販売となった。唯、いずれの銘柄も大粒で2L、L大中心の球流れで、小売り向けには売り辛い状態であった。昨今、北海物の入荷は増加傾向にあるものの、買参人の引き合い強く、需要は堅調で品薄傾向である。

8月1日～19日の玉葱販売量は1,239トン前年比107%、平均単価はkg ¥161前年比143%。入荷は前年比増、単価は前年比大幅高だが、市況は前月比で弱含みであったが、下旬の需給はタイトで強含みに転じている。

8月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷359トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,500、L大 ¥2,500～2,000、L ¥2,300～1,800、
M ¥1,900～1,800。

【太田市場】 入荷204トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,300～2,000、L大 ¥2,500～2,300、L ¥2,300～2,100、
M ¥2,200～2,000。

【名古屋北部市場】 入荷76トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,300～2,200、L大 ¥2,500～2,300、L ¥2,400～2,200、
M ¥2,100～2,000。

【大阪本場】 入荷130トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,500～2,300、L ¥2,300～2,100、

M ¥ 2,200 ~ 2,000.

兵 庫 20kgDB2L ¥ 2,700 ~ 2,600、 L ¥ 3,200 ~ 3,000、 M ¥ 3,200 ~ 3,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 1,700 ~ 1,500、 L ¥ 1,700 ~ 1,500、 M ¥ 1,600 ~ 1,500。

【福岡市場】 入荷211 トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥ 2,200 ~ 2,000、 L大 ¥ 2,600 ~ 2,400、 L ¥ 2,600 ~ 2,400、

M ¥ 2,400 ~ 2,200。

佐 賀 20kgDB2L ¥ 2,800 ~ 2,700、 L ¥ 3,000 ~ 2,900、 M ¥ 3,000 ~ 2,900。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 1,500 ~ 1,400、 L ¥ 1,600 ~ 1,500、 M ¥ 1,600 ~ 1,500。

供給(産地)の動き

例年になく府県産の切り上がりが早く、主力産地の佐賀は盆前に・兵庫は盆明けに殆ど終了した。いずれの産地も切り上がりが平年比1か月前後早い。前年比減反・減収を反映して、春～夏の市況が異常高となったことで、出荷が前進化した。8月後半からは、北海産主力となったが、今年の北海道は天候不順で雨天曇天が多く、収穫・出荷が後ズレ傾向となったほか、8月始めの大雨で北陸・東北地方が大被害を受け、鉄道が不通となったことで出荷が更に後ズレした。此の先の販売環境は、北海産主導態勢になり、当面の需給は均衡を維持すると予想している。

府県産地

佐賀産地では、即売物のお荷はほぼ終了している。高値市況を反映し、春先からの異常高値で、中晩生のお荷も前進化して、お荷の修了は平年比1か月前後も早い。昨今では、次シーズンの播種の準備中で、既に極早生の播種が始まっている。昨シーズンの極早生は、北海産の在庫減から破格の高値市況となったことで、極早生の生産意欲が高く、種子不足が発生している。産地は早

生増反、中晩生減反のムードにある。

中晩生の主力産地である兵庫県淡路島でも、即売出荷の切り上がりが早く、こだわり筋を除き殆ど終了している。平年に比べ半月～1か月早い。年間、地域ブランドの淡路玉葱を販売している小売店からの要望もあり、一部は冷蔵物を出荷している業者もある。冷蔵入庫は7月末の中間調査では、77万ケースで前年比78%であったが、最終入庫量は、平年と異なりその後は、入庫よりも出庫が上回る状況にあり、秋冬期の冷蔵物の需給は、品薄になりそうである。

北海道産地

今年度の北海産玉葱の作付生産概況は、6月の降雹で道東地区で廃耕となった圃場があり、作付面積は12,046ha(前年比96%)、平均反収5,910kg(前年比128%)、生産量712,000トン(前年比122%)、出荷量679,470トン(前年比123%)、と予想されている。

天候不順で全道的に収穫が遅れている。球肥大は進んでいるものの、未だ根切り作業が出来ない圃場も多い。札幌地区は平年作かやや下回る作況だが、その他の地区はいずれも平年作を上回る豊作型である。天候不良で、根切り、収穫の適期を逸している圃場が多く、球肥大は良好だが、品質劣化の心配がある。

輸入動向

7月の輸入は速報値で、21,882トン前年比110%。8月から北海産が出回ることや、価格が北海産に比べ割高になる見通しから、前月比66%と減少に転じている。国別数量は、主力の中国が20,156トン前年比112%。ニュージーランドが1,437トン前年比80%。オーストラリアが236トン前年比248%。となっている。

中国、今年の生産量は、減反・減収となっているほか、赤玉の作付が増え、

黄玉の作付が減っている。昨今、国内マーケットも弱含みで、産地価格も値下がり傾向にある模様。

9月の市況見通し

主力の北海産は、天候不順で収穫・出荷の遅れが顕著だが、生産量は前年比20%前後の増収となる予想である。府県産の在庫減、輸入物の導入減等で品余りは避けられると見ている。収穫が終了するまで、予断は禁物だが品質的には高温・多雨・多湿の天候が続いたので、病害の多発生が心配される。収穫が終了期を迎える中旬までは、市況は軟化傾向を辿るものの、L大、Lの中心相場は¥2,300~2,000を維持出来ると見ている。(笹野敏和記)